

少人数指導で、指導と評価の一体化サイクル

岩邑小学校の子どもの学力や指導と評価について研究主任の磯村浩子先生にお話を伺いました。

学年末のこの時期（3月初旬）に子どもたちが受けているテストはどういうものでしょうか。

「今日のは、計算力のテストです。子どもたちが日々学習してきたことで、これまでに計算力がどれくらい身についているかをみるための総括的評価ということになります。子どもたちには『今までの学習の成果をみるからね』ということと受けさせています。また、全国レベルから見ると本校の児童の計算力はどうかという比較も、できれば指導する私たちとしては知りたいところです」



研究主任 磯村浩子先生



来月から新年次が始まり、子どもたちは上学年へと進んでいきます。この時点で計算力が身につけていないと判断される子どもへのケアは？

「それは大事なところですよ。『総括的』と言いながら次のステップの診断的な評価でもあるわけですね。これは不断に続くサイクルだと思います。私たちは日頃から学習したことの復習に心がけてきました。更なる学習の定着を図るということで、マナビータイムや学期末テストの機会を生かし、子どもたちの実態をつかみ、どのような学習の力が十分についているか、おさらいとして押さえることは何か、という学習内容をよく吟味したうえで、先の冬休みにも課題学習を与えました」

「マナビータイムというのは？」

「学ばふ」と、郷土の偉人三好学から

ネーミングした名前前で、木曜日に補充や課題学習のために設けた時間のことです。

そういう意味で上の学年に進んでも、ケアが終わるのではなく、日々の授業での「看取り」や単元テストによって、子どもたち個々の到達度を常に把握し指導が続くのです」

いわゆる形成的評価ですね。日々の授業での「看取り」とは具体的にどのような指導ですか？

「いろいろと指導方法はあるのですが、本校では『少人数指導』というシステムを設けています」

能力別にクラス編成をされるわけですか？

「能力別というより『習熟度別少人数指導』です。例えば算数では、単元の学習が始まる前にレディネステストをします。その結果、子どもたち自身で

コースを選択させるわけです」

コース選択？

「『じっくりコース』と『どんどんコース』と学校では呼んでいます。本校は学年2クラスなので、これを3つのクラスに分けるのです。（左図参照）

理解の速い子は、私が指導をし、理解に時間がかかる子は、それぞれのクラス担任が引き続き受け持ちます。教科書のほかに、ドリルやネットサー

ビスの補充問題をダウンロードして指導しています。指導内容は同じですが教えるスピード、課題、流し方を変えているのです。じっくりコースの子は10人そこそこ、どんどんコースの子は20〜30人くらいでしょうか。一年を通してこういうシステムを採っています」

● 指導と評価の一体化サイクル



● 習熟度別少人数指導のコース分け

